

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

肢体不自由教育における牽引力のある学校としての「組織力・専門性・実践力」を継承し、特別支援教育の推進を図るために、「障がいのある子どもの自立と社会参加をめざしたキャリア教育の展開」を行うとともに、「センター的機能の発揮」に努める。その際、本校の校訓でもある「明るく 正しく たくましく」を旨として、以下の3点を重点とした学校経営に取り組む。

- 1 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
- 2 安心・安全な学校づくりと子どもの障がいの状況に応じた支援の方策を図るために教員の専門性向上と授業改善の工夫を図る。
- 3 開かれた学校・地域との連携を重視し、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を促進し、支援教育の更なる充実のために地域支援の、センター的機能の発揮に努める。

## 2. 中期的目標

1. 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
  - (1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実・活用に向けた取り組みを各学部で検証し、保護者との連携促進と移行を意図したシステムを構築する。
  - (2) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。その際、校内で計画中のピオトープを活用して環境教育を推進する。「ホタルプロジェクト」のカワナ養殖や伝統野菜である「田辺大根・天王寺蕪」等の栽培・収穫・給食での活用等の取組も継続する。
  - (3) 卒業後の進路について、社会参加ができるような進路保障をする。
    - (1)については、H27年度までに成果の検証を行う。
    - (2)のピオトープについては、H29年度までに定着させる。
    - (3)関係機関をはじめ社会と生徒とのつながりを創出し、つながる場や機会のない生徒を0にする。
- 2 安心・安全な学校づくりを推進する。
  - (1) 定期的安全点検と同時に、緊急時を想定したマニュアルの再確認とシミュレーションを行う。防災対応についてPTA、地域と連携し取り組む。子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。
  - (2) 重度重複障がい・医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図り、保健室がキーステーションとなってマニュアルの再確認と点検を行い研修の充実に努める。
  - (3) 増加する知的障がいの生徒の多様化や在籍数の増加に対応できる安全対策を進める。
  - (4) 健康教育を推進する

\* (1) (2) (3)は、毎年成果の検証を行う。

(4)は、児童生徒への実践のまとめと保護者へ情報提供を推進する。
- 3 堺・泉北地域における支援教育の中心的役割を担い、センター的機能の発揮に努める。そのためには、肢体不自由や知的障がい、自閉症等の障がい特性等の理解や指導技能の専門性を磨き、各教員一人ひとり各々の授業力を高めるための取り組みを行う。その際、以下の内容について、具体的な取組計画を行う。
  - (1) 校内の支援として、自活専任の活用と校内研修や授業実践の公開を行うなど積極的に障がいに関する事、授業の研究・研修の企画を行う。その支援として、大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける環境を醸成する。
 

\*外部人材の招聘 ①大学の研究者 10 回程度、②医師、医療関係者 5 回程度、③園芸専門員他 10 回程度、学生支援員 随時
  - (2) 校外支援として、堺・泉北地域の支援教育の中心的役割を担い、教育委員会・学校との調整を行い、リーディングスタッフ・コーディネーターを中心に巡回相談や教育相談を展開し、地域の学校園に対しての支援方策を展開する。
 

\*教育委員会と支援方法等の確認を行い、H28年度までに支援方法等の確立を図る。
  - (3) 授業力の向上や授業改善として、ICT等の機器を活用した教材の導入等の工夫を図る。タブレット端末機を計画的に導入し、どの授業でも活用できる環境を整える。
 

\*H28年度までにICT等の機器を利用した実践をまとめたものを作成する。
- 4 機能的な組織づくりを推進する。
  - (1) 分掌間の連携や分掌内の係分担の連携を進める。
  - (2) 首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れて課題解決に向けての検討を進める。
  - (3) 教職員の資質向上に努めるなど人材の育成を進める。

\*機能的な組織づくりをめざし、毎年検証を進める。

**【学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見】**

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 10 月 実施]	学校協議会からの意見
<p><b>○概況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月下旬に保護者、中学部・高等部一部生徒、教職員を対象に実施した。回収率は保護者 65.1%、生徒 80.0%、教職員 98.4%であった。</li> <li>・保護者を対象としたアンケート内容 「教育活動について」 ① 教育内容 ②学校との連携 ③施設・設備、通学バス、給食、医療的ケア、長期休業中の問題について 15項目 「学校運営に関すること」 3項目</li> <li>・生徒を対象としたアンケート内容 9項目</li> <li>・教職員を対象としたアンケート内容 「学校教育計画・教育目標・教育課程・個別の教育支援計画・個別の指導計画等」「特別活動・生徒指導等」「進路指導」「交流教育・人権尊重の教育・道徳教育」「自立活動」「健康の管理と指導・研修」「校務分掌・委員会」「防犯・防災計画・安全確保の体制」「研修・ネットワーク等」「職場環境」「保護者・地域とともに」「学校運営に関して」 37項目</li> </ul> <p><b>○結果等</b></p> <p><b>保護者</b> 教育内容に関する9項目は肯定的評価 90%以上という結果で、過去の結果を継続している。しかし、通学バス、夏休みの学校での取り組みは、課題がある。</p> <p><b>生徒</b> 選択肢に「わからない」がなかったため、無回答の項目が多かった。</p> <p><b>教職員</b> 課題のある項目が減少し、改善している。しかし、前回から課題に挙がっている項目もあるので、検討が必要である。</p> <p><b>○課題の検討方法</b> 検討課題等の項目については、運営委員会を中心に、改善策の検討を各部署に依頼し、年度内に対応策をまとめる。</p>	<p>第1回 (6/29)</p> <p>(1) 学校経営計画</p> <p>①平成26年度学校経営計画及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホタルプロジェクト」の当日、観覧者から「カワニナ」はどこで育てているのかという質問があり、支援学校の子どもが育てていると言ったら感心されていた。</li> <li>・学校と施設との情報共有の仕方を有効にできるようにしなければならないが、必要な情報は一人ひとり違う。</li> <li>・医ケアの内容が複雑になってきているが、教育と医療の連携は重要である。</li> <li>・困ったケースがあれば相談してもらいたい（教育と医療の連携）</li> </ul> <p>② 平成27年度学校経営計画及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁徳陵の清掃活動は大々的になってきている。学校が地域の人と一緒にやっているのは学校のPRとして良い。地域住民と触れ合う良い機会。</li> <li>・性の問題は、普段接している中で教えていけないのではないか。</li> <li>・子どものうちから異性を意識する教育が必要。</li> <li>・BCプランについては、PTAと学校が連携して進めている。</li> <li>・専門性の確保について、教材はカテゴリー別に整理するとよい</li> </ul> <p>(2) 学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断については、学校への関心度が低いと回収率が低くなる。もっと関心を持ってもらいたい。</li> </ul> <p>第2回 (12/14)</p> <p>(1) 平成27年度学校経営計画について（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツが果たす役割が大きい。</li> <li>・ポッチャが広まり、パラリンピックにつながるとよい。</li> <li>・堺支援が行っている活動をもっとアピールしていけばよい。</li> <li>・放課後デイサービス等との連携は、課題整理を行う段階にある。</li> </ul> <p>(2) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなった部分に目を向けるだけでなく、良くないことについて不すよう検討することが重要。</li> <li>・医療的ケアの項目について、範囲を限定したアンケートがあってもいいのではないか。</li> <li>・保護者と教員の意識のずれをどう埋めていくか見当が必要である。</li> </ul> <p>第3回 (2/12)</p> <p>(1) 学校経営計画について（達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災については、地域との協力体制が重要である</li> <li>・学校とデイサービスとの連携は少しずつ進んでいる。双方向の連携が必要である。簡単な情報共有ができるツールがあればよい。</li> <li>・就労については、あいさつがきちりしていると気持ちがよく、大切なことである。</li> </ul> <p>(2) 防災への取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的なことで、電源確保も重要な課題である。</li> <li>・福祉避難所としての対応も考えていかなければならない。</li> </ul>

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の検証と保護者との連携促進</p> <p>(2) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。</p> <p>(3) 卒業後の進路について、社会参加できるような進路保障をする。</p>	<p>(1) ①個別の指導計画にキャリア教育ステージ表が有効に活用されている。キャリアステージ表の各段階で示された内容を教育内容にどうつなげていくか検討を進める。</p> <p>②保護者懇談や参観日で検証を行う。</p> <p>③PTA 運営委員会や学校との懇談会で意見集約を行い、改善を行っていく。</p> <p>(2) ①校内に計画中のビオトープを児童生徒が活用し、環境教育を推進する。</p> <p>「カワニナ」の飼育、「田辺大根」の栽培の取組も継続する。</p> <p>②近隣の清掃活動の支援 地域と清掃区域や回数等の調整を行い、前年度より前進させる。</p> <p>(3) ①本人・保護者のニーズに応えられるよう改訂した「進路のしおり」の有効活用を図るとともに、関係機関との連携を深め、事業所訪問も積極的に行い、的確で丁寧な情報提供を行い、適切な進路決定ができるようにし、外部との関わりのない生徒を0にする。</p> <p>②昨年度の就労支援コーディネーターの取り組み成果を整理し、職業コース以外で活用できる参考事例を探る。</p>	<p>(1) ①検証方法について課題の整理を行う(年度内)。</p> <p>②保護者からの肯定的評価90%</p> <p>③学期に1回検討会を開催</p> <p>(2) ①学部の児童生徒・教員からの肯定的反応80%</p> <p>②地域からの肯定的評価90%。</p> <p>清掃活動(月1回実施)</p> <p>(3) 保護者の肯定的評価80%以上</p> <p>成果活用方法の検討を行う</p>	<p>(1) ①検証を行い、より具体的な再案作りに取り組んでいる。</p> <p>(○)</p> <p>②肯定的評価約90%今後も連携を進める。(○)</p> <p>③検討会で「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の保護者への提示時期や方法についての意見をいただき、改善した。</p> <p>(○)</p> <p>(2) ①ビオトープの整備に時間がかかり、活用が遅れ、予定通りにはいかなかった。「カワニナ」の飼育、「田辺大根」の栽培の取組は順調であった。肯定的反応70%(△)</p> <p>②連携は進み肯定的評価90%。(○)</p> <p>(3) ①初めての取組みとしてPTAと連携し、福祉事業所合同説明会を開催した。肯定的評価90%(◎)</p> <p>②職業コース以外にも生徒の実態把握のアンケートを実施し、実習先の開拓に活用している。</p> <p>(○)</p>

<p style="text-align: center;"><b>2 安心・安全な学校と子どもの障がいの状況に応じた支援の方策</b></p>	<p>(1) 定期的安全点検と緊急時を想定したマニュアルの再確認。PTA、地域と連携した防災対応の取り組みの推進。</p> <p>(2) 子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。</p> <p>(3) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図る。事故防止のための体制づくりの強化を図る。</p> <p>(4) 増加する知的障がいの生徒の安全対策を進める。</p> <p>(5) 大手前分校における病院との連携促進。</p> <p>(6) 健康教育の推進</p> <p>(7) 子どもの障がいの状況に応じた授業の工夫をし、自己実現につなげる</p>	<p>(1) ①PTA・教職員の定期的な点検を実施し、できることから改善する。</p> <p>②昨年度当初に立てた備蓄計画等を再検討し、より実行性のあるものとする。災害後早期学校再開に向けたBCプランの作成を進める。</p> <p>(2) 教職員には学期に1回人権研修の実施と啓発活動を行う。</p> <p>(3) ①新転任者・医療的ケアの未経験者に研修をすぐ役立つ要点から始め計画的に実施する。</p> <p>②医師・看護師からの定期的カンファレンスを設定する。 事故報告、インシデント、ヒアリハットの報告様式を改善し、認識等の整理を行い、事故防止の意識を高める。PT や ST 等の専門家を招聘して、介助の方法や身体的アプローチの仕方等の技法を学ぶ機会を企画する。</p> <p>(4) 危険な個所を順次改修する。</p> <p>(5) 「学校・病院との連携協議会」の学期1回開催の定着及び「月一回の連絡会」の開催の継続とより実効性を持たせるため内容の検討を継続する。</p> <p>(6) ①保健だよりの充実、食育の推進 ②検診等で受診をスムーズにできるよう視覚支援の工夫</p> <p>(7) 教材の工夫や指導の工夫をし、学期に1回報告会をする。</p>	<p>(1) ①月1回の点検を実施し、必要に応じて、速やかに改善する ②改訂プランの完成 年度内にBCプラン作成</p> <p>(2) 振り返りシートでの肯定的評価90%</p> <p>(3) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価85% ②医師・看護師・専門家からの受講者への肯定的評価80% 様式の改善を年度内に行う</p> <p>(4) 優先順位をつけ、順次改修に取り組む</p> <p>(5) 病院関係者、教員の肯定的評価80%</p> <p>(6) ①保健だより、給食便りの定期発行(月1回) ②視覚支援のまとめを年度内に作成</p> <p>(7) 児童生徒、保護者の肯定的評価80%</p>	<p>(1) ①点検した結果を整理し、優先順位をつけ改善している (○)</p> <p>②「防災」をテーマとし、PTAとの懇談会を実施し現状の検証を行った。BCプランの原案を作成した。(○)</p> <p>(2) 年間4回実施し、実践を振り返る機会となり、人権意識を高めることができた。肯定的評価95% (○)</p> <p>(3) ①肯定的評価90% (○) ②医師・看護師・専門家からの受講者への肯定的評価80% 事故報告、インシデント、ヒアリハットの報告様式を改善し、記入目的も明確にし、意識は高まった。専門家を招聘しての研修も有効であった。(○)</p> <p>(4) 転落防止柵の設置等順次改修した。 (○)</p> <p>(5) 事前に話し合う内容を打ち合わせし、スムーズな運営ができた。肯定的評価80% (○)</p> <p>(6) ①定期だけでなく随時情報提供の便りを発行した。 (○)</p> <p>②内科検診、眼科検診等6種の検診の流れを見通しを持てるよう視覚支援にまとめた。 (○)</p> <p>(7) 学部単位で実施 肯定的評価90% (○)</p>
--	---	---	--	--

<p style="text-align: center;"><b>3</b> 支援教育のセンター校と教員の専門性向上の取組</p>	<p>(1) 校内研修や授業研究・実践の促進</p> <p>(2) 教員の専門性向上に向けての支援</p> <p>(3) 障がい種別に応じた外部人材の招聘</p> <p>(4) 校外支援と校内支援の展開に向けての構築</p> <p>(5) 福祉等関係機関や放課後デイサービス機関との連携の強化</p> <p>(6) 道徳教育の取り組みを進める</p>	<p>(1) 研修は研究部が各部署からの企画内容をコーディネートし、重複部分をなくし重点目標に沿って系統だったものとする。</p> <p>研究授業は、支援チームを作り、具体的に授業改善が進むよう在り方を改善する。</p> <p>(2) ICT の活用環境を図るためにも、引き続き活用研修を行い、実践事例のまとめを作成する。教材教具の好事例の発表や他校での実践研修に積極的に参加し、発表する機会を設け、専門性向上をめざす。スーパーバイザーシステムの活用を進める</p> <p>(3) 授業の研究・研修の企画を行う。大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける。①大学の研究者 10 回程度、②医師、医療関係者 5 回程度、③園芸専門員他 10 回程度、学生支援員 随時)</p> <p>(4) リーディングスタッフ、コーディネーターと自立活動専任スタッフを中心に校内・校外支援の組織的な動きを支援する。 自活専任が行う校内支援を教員に具体的に示し、専門性向上につなげる。</p> <p>(5) 保護者と連携し、福祉関連機関に移行支援計画を確実に引き継げるようにする。増加する放課後デイサービス機関との連携を進める。</p> <p>(6) 各学部で検討すすめ、全体計画の作成をする</p>	<p>(1) 参加者からの振り返りシートによる肯定的評価 80%以上 支援チームができ、授業担当者の満足度 70%以上</p> <p>(2) 実践事例集の作成。活用方法等の研修の実施</p> <p>(3) 外部人材による研修者への評価受講者の満足度 80%以上</p> <p>(4) 各市教育委員会及び学校園における本校のリーディングスタッフ・コーディネーターの支援に対する肯定的評価 90%以上 月 1 回の管理職を含めた自活専任会議の実施。教員の満足度 70%以上</p> <p>(5) 福祉関連機関放課後デイサービス機関からの本校との連携に対する肯定的評価 75%</p> <p>(6) 全体計画を年度内に作成</p>	<p>(1) 重複部分がなくなり、より系統だった研修が実施できた。肯定的評価 85% 首席、研究部が中心となり、授業改善の取り組みを進めた 満足度 80%(○)</p> <p>(2) 実践事例を作成したが、活用方法の研修は遅れている (△)</p> <p>(3) 定期的に外部人材を招聘し、専門性の向上に努めた外部人材による研修者への評価受講者の満足度 80% (○)</p> <p>(4) 計画的に支援を行った。肯定的評価 90% 月 1 回の会議で、取り組みの検証を行い、より有効な支援を行えるようにした。満足度 80% (○)</p> <p>(5) 移行支援計画については引継ぎを確実にしている。デイサービスとの連携も代表者を通じ行っている。肯定的評価 80%(○)</p> <p>(6) 全体計画を作成した。(○)</p>
<p style="text-align: center;"><b>4</b> 機能的な組織づくりの推進</p>	<p>(1) 校内組織の機能的運営</p> <p>(2) 人材育成</p>	<p>(1) ①複数の分掌に関連する事案等を運営調整会議、運営委員会で審議し連携できるようにする。</p> <p>②首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで、課題解決や将来構想に向けての検討を進める。</p> <p>③分校の校内組織の改善を進める。</p> <p>(2) ①初任者育成のバディー制度を作り、2・3年目の教員とマンツーマンでの支援体制を行う。</p> <p>②OJT を推進する。 得意分野のアンケート活用方法を検討し、助言を得られるようなシステムの構築をする。</p>	<p>(1) ①連携した取組み（事案調整機会）を増加</p> <p>②定期的実施し、課題解決等の確認をする</p> <p>③組織改善を年度内に実施する</p> <p>(2) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価 80%</p> <p>②本年度内中にシステムの構築</p>	<p>(1) ①審議し、3件調整した。 (○)</p> <p>②定期的実施し、課題解決についての確認や整理ができた。(○)</p> <p>③年度内に実施でき、役割分担の整理ができた。(○)。</p> <p>(2) ①初任者、2・3年目の教員ともに研修や実践の見直しができ効果的であった。肯定的評価 90% (◎)</p> <p>②アンケートを集約し、得意分野をまとめることができ、システム構築の基礎ができた。 (○)</p>